

わ

が

街

わ

が

故

郷

日本精工九州株式会社 と うきは市

会社紹介

所在地 福岡県うきは市浮羽町古川字日精774
設立 1995年11月
資本金 3億円
生產品目 精密ボールねじ
敷地面積 152,000㎡

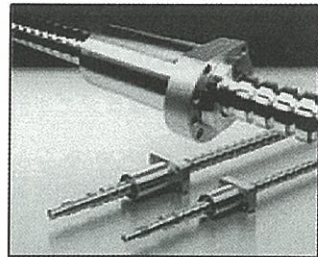


日本精工九州株式会社

日本精工九州株式会社(NSK九州)は、1996年4月に稼働開始し、今年で14年目を迎えます。現在は、精密ボールねじの専用工場として高度化する産業に貢献し、多くのお客様の厚い信頼を得るため、日々生産活動を行っています。

沿革としては、1996年4月、日本精工(株)の九州初の生産拠点として、自動車部品(ステアリングジョイントなど)の製造会社としてスタートしました。その後、半導体・液晶の製造装置部品やシートベルトの製造といった多品種にわたる生産を行ってまいりました。そしてNSK九州の歴史が大きく変わるきっかけとなったのが、2001

年4月、精密ボールねじの専用工場棟(第3工場)の完成でした。これを機に生産を集中させるために、自動車部品や半導体・液晶製造装置部品をNSKグループ会社に移管し、2008年3月には、精密ボールねじ事業に特化した工場へ大変身しました。私たちは、この製品を通じ、『高速化』『高精度化』『省エネルギー化』といった時代の要求に応えるとともに地域社会から愛される良き企業市民であり続けることが願いです。



精密ボールねじ

うきは市の概要

うきは市は、福岡県の南東部に位置し、江戸時代『天領』であった日田市や久留米市、朝倉市と隣接しています。会社の位置するエリアは『日田耶馬彦山国定公園』の指定地域に属しており、自然環境に大変恵まれたところです。南には『耳納連山』、北には筑紫次郎の名で有名な『筑後川』が流れています。

また、筑後川沿いには数多くの温泉がありま

す。うきは市内には『筑後川温泉』『吉井温泉』、隣接する地域にも『日田温泉（日田市）』『原鶴温泉（朝倉市）』といった観光名所が軒を連ねています。

うきは市は、平成17年3月20日、旧浮羽町と旧吉井町が合併して「うきは市」が誕生しました。面積は117km²、人口33,000人と規模は比較的小さな市です。



柿の木

うきは市のシンボル『花・鳥・木』

(彼岸花)

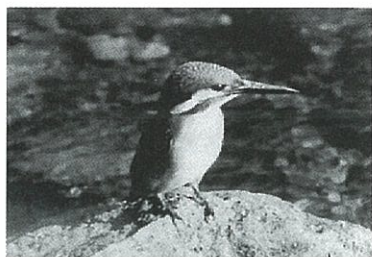
お彼岸に咲く花は、黄金色の稲穂とのコントラストが映え、美しく力強さが感じられます。また彼岸花めぐりに代表されるように、まちおこしのシンボリックな花となっています。



彼岸花

(かわせみ)

数は限られていますが市全域で見られ、瑠璃色（るりいろ）の羽と小さな姿がかわいらしく美しい鳥です。



かわせみ

(柿の木)

全国有数の産地であり、産業振興面からも市のシンボルにふさわしい木です。

うきは市の特産物

(果物)

耳納山麓一帯は西日本随一の富有柿の産地として知られています。うきはの柿は、色・糖度ともに日本有数を誇り、10月になると大玉の柿狩りをする家族連れの歓声が聞こえます。

美味しさ抜群の巨峰と県内一の生産量を誇るカーネーションも、うきは市自慢の名物です。

うきは市に隣接する久留米市田主丸町は、巨峰発祥の地として知られています。耳納山麓は、果物の栽培に適した条件を備えており四季折々の味わいを楽しませてくれます。

(焼物)

豊臣秀吉が朝鮮出兵の折、陶工を招いて焼き始めたのが起源といわれています。

近世は久留米藩の御用窯となっていました。明治維新の際しばらく廃窯となり、昭和34年に再興し、現在6軒の窯元があります。

雅趣を感じさせる花瓶や皿、茶器、酒器など、どれも目に口にやさしいものたちです。素朴なぬくもりを感じさせ、飽きのこない焼物は贈り物などにも喜ばれ、人気を集めています。

毎年11月3日前後に開かれる一の瀬焼陶器祭りは、各地から陶芸ファンが訪れ賑わいをみせます。



一の瀬焼陶器祭り

うきは市の文化財

国の指定史跡ともなっている楠名重定古墳や、塚花塚をはじめ大小数百に上る古墳が耳納山麓には存在します。大昔からこの地に人が住み繁栄していたことがうかがえます。その時代から受け継いだ、『豊かな自然』と『きれいな湧き水』を次世代に引継ぐことが私たち市民の使命だと思います。

また、文化財として三百余年前の建築にかかるといわれる「くど造り」民家や、本仏寺の宝物殿に納められている矢田一嘯画伯による油絵の元寇のパノラマ画(14枚1組)などがあります。



くど造り民家

うきは市のイベント・祭り

うきはの蔵開き 酒楽祭 <2月11日>

うきは市浮羽町は、その昔「景行天皇」が浮羽の地を巡行された時に「我がうきはや」(“うきは”は盃の意)と、随行のものが盃を忘れたことを嘆かれた故事から地名が付いたとされています。酒と盃ということで、天皇が立ち寄られた地「浮羽島」にお酒を捧げ、お出でいた

だいた皆さんに「酒を楽しんでいただく祭り」として『酒楽祭(しゅらくさい)』と名付けられました。当日は、物産販売、ステージイベントなどの催しで1日中賑わいます。



うきはの蔵開き 酒楽祭

かゆ占い <3月30日>

田籠諏訪神社「かゆ占い」毎年3月30日、田籠諏訪神社で「かゆ占い」の神事が行われます。

この「かゆ占い」は、かゆに生えたカビの色やその生え方で、その年の農作物の出来を占う伝統行事で、1782年(江戸・天明2年)から現在まで続いています。この「かゆ占い」の記録と御粥箱は、県指定文化財になっています。



かゆ占い 御粥箱

吉井おひなさまめぐり <2月10日~4月3日>

白壁土蔵の町並みを背景に、うきは市吉井町内の旧家や町在住者が所蔵する、江戸時代から現在までの豪華なものから珍しいものなど、数多くのおひなさまを各家々や商店、公共



吉井おひなさまめぐり

施設に展示しています。白壁土蔵の町並みをゆっくり散策しながらの、おひなさまめぐりも乙なものです。日曜日は人力車に乗れます。

吉井祇園祭 <7月21日・22日>

素盞鳴神社はもとは豪族星野氏の城下町に祀られていた祇園神社でしたが、滅亡とともに交通の便のよい商人の町、吉井へ移り現在地に遷座しました。

この素盞鳴神社の夏祭が、昔のままに祇園祭と呼ばれ、毎年3ヶ所に勇壮華麗な山笠が建ち、多くの人々が祇園囃子の調べに誘われて夏の夜の涼を楽しんでいます。



山笠

筑後川温泉花火大会 <7月28日>

約3,000発の花火が筑後川を彩る夏の夜の祭典。

ふれあい広場では演奏などのステージイベントやたくさんの露店など盛りだくさんです。花火は、日本精工九州(株)の敷地境界から打上られるため、迫力満点の花火見物ができます。

うきは祭り <11月初旬>

うきは祭りは、毎年11月初旬の土日に開催される、うきは市最大のイベントです。うきは市浮羽町の中心地にあるメイン会場と各サブ会場でさまざまなイベントが開催されます。メイン会場のお祭り広場では、大型のテントにステージが設けられ、いろいろな出し物が催されます。また、その周りにはたくさんの出店が並び一日中たくさんの人出で賑わいます。

サブ会場では、「一の瀬焼陶器祭り」「いで湯の里筑後川温泉祭り」「道の駅うきは秋祭り」「秋のうきは路柿マラソン」などのイベントで盛り上がります。



うきは祭り

小塩冬ボタル <12月>

ホテルの里小塩地区では、12月中に(一部は1月上旬まで)地域をいきいきさせようと、各家庭の庭先に色鮮やかなイルミネーションを点灯させる「冬ボタル」を行っています。下校する子どもたちや故郷へ帰る人たちを、明るく迎えようと女子尾地区で始まった飾り付けが、年々輝きを増し、今では小塩川流域全体に広がり約8キロにも及びます。

(日本精工九州株式会社 管理部 片原田 正彦)